

クロージング

司会：リカバリー全国フォーラム企画委員

大島巖（地域精神保健福祉機構 コンボ）

藤野英明（地域精神保健福祉機構 コンボ理事）

高橋清久（地域精神保健福祉機構 コンボ アドバイザリー）

秋山剛（NTT 東日本関東病院精神神経科）

クロージングはリカバリー全国フォーラムの大事なプログラムの一つです。毎年、最後のクロージングで大いに盛り上がります。

40 グループに分かれての振り返り

まず、参加者の皆さんが、近くに座っている参加者の方々が声を掛け合って5～8名の小グループを作り、自己紹介しあいました。

今回は、およそ40グループができ、今回のリカバリー全国フォーラムで、一番印象に残ったことをおよそ15分間話し合いました。

●グループA

ほとんどリカバリーフォーラムの知識がないひとばかりのグループでした。フォーラムで出会ったのも何かの縁。このグループは偶然、住んでいる人も近い人が多かった。フォーラムの最後に、輪が広がった。

●グループB

このグループは発達障害の人が偶然4人いて、薬の話で盛り上がった。フォーラムへの要望としては、子供を育てている当事者の話が聞ける分科会がなかったみたいなので、来年はそうした分科会を設けていただきたい。

●グループC

このグループにはピアスタッフの経験者が1人いた。ピアスタッフにはいろいろな苦労や困難がつきものだが、このフォーラムに参加をして、そうした困難は、ピアスタッフ個人の力量が不足しているからではなく、環境の問題も大きいことがわかった。以前、自分の力量不足を感じていたので、自分を責めることをやめようと感じたフォーラムだった。

●グループD

今回2回目の人が2人グループにいた。二人とも、初めての時にはすごく緊張したが、今回は2回目だったので、リラックスもできたし、冷静に話を聞くことができた。

●グループE

6人のグループとなった。家族、支援者、当事者、参加の県などもバラバラのグループだった。今回のフォーラムは、ピアが中心になっていく、という話が多かったが、地域ではなかなかそうはなっていない。

●グループF

まだまだ、ピアが育つ土壌が地域には不足している。学びの場が不可欠だと強く感じた。

高橋先生の引退のあいさつ

第1回目から今回の第10回目まで実行委員長を務めてきた高橋清久先生が今フォーラムをもって引退をすることとなりました。

高橋「これまで10年、なんとか務めてきた。1500人の参加を目指してきたが、1400人がマックスだった。私としては医者にももっと参加してもらいたい。これからの10年はさらに発展することだろう。これをもって若い人にバトンタッチすることとする」

次回から実行副委員長を務める秋山剛先生のあいさつ

このリカバリーフォーラムで話し合われた内容が形になる道筋をこれからの10年につくっていききたい。フォーラムは皆さんの声、意見を聞いてやっていきたい。

会場の皆さんからリカバリーフォーラムへのリクエスト

最後に、会場の皆さんから、リカバリーフォーラムへのリクエストをお聞きしました。

- 食道がもう少し広いスペースだとよい。
- タバコを吸えるスペースがほしい。
- 今回は9月だったが、8月だと暑すぎる。涼しい季節がいい。
- 医師と患者の間に、「間」がある。SHAREの普及を推進してほしい。
- フォーラムの冒頭で、できれば毎回リカバリーとは何かという説明をしてほしい。

最後に、会場全体で、「オー！」というかけ声で集合写真を撮影して、クロージングセッションを終了しました。

